

板橋区立志村第三小学校 令和8年度 学校経営方針

ワクワク!

子どもが主役の学校



～リーダー・イン・ミー教育の実践を通して～

板橋区立志村第三小学校 校長 海沼 秀樹

「子どもが主役」の学校づくりを目指す。キーワード「責任」「信頼」「誇り」
～全ての判断基準の第一は子どもです。子どもにとって良いと思うことは積極的に取り組みます。～

東京都教育ビジョン（第5次） 東京の目指す教育
誰一人取り残さず、すべての 子供が将来への希望を持って 自ら伸び、育つ教育

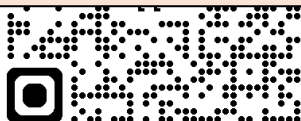
MIRAI SCHOOL いたばし -教育ビジョン 2035-

2035年に向けた教育における未来を描いた指針



最も大切に考える考え方

教育は人が幸せに生きるためにある 一学ぶ喜びや成長する喜び、人とつながる喜びを感じられる一人ひとりの生涯—
教育における幸せ=3つの喜び（学ぶ喜び、成長する喜び、人とつながる喜び）



MIRAIという言葉にこめた、「5つのチカラ」
ivation) 認め合って生きるチカラ (Inclusion) つながり助け合うチカラ (Relation)
起こすチカラ (Activation) ゼロから切り拓くチカラ (Innovation)
<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kyoikuinkai/houshin/vision/1061061/index.html>

本校の学校教育目標 リーダー・イン・ミー 7つの習慣

○進んで働く子 → 自分の役割に積極的に取り組み、達成する子

第1の習慣「自分で考えて行動する・自分に責任をもつ」

○考えて行動する子 → 基礎・基本を身に付け、見通しをもって意欲的に学習に取り組む子

第2の習慣「ゴールを決めてから始める。何が大切かを考える。」第3の習慣「大切なことを今すぐに。自分の約束を守る。」

○なかよく助け合う子 → 自分に自信をもち、自己抑制ができ、思いやりのある子

第4の習慣「Win-Winを考える。」第5の習慣「まず理解に徹し、そして理解される。」第6の習慣「シナジーを創り出す。」

○健康で明るい子 → 諦めない心とやり遂げる体力のある子

第7の習慣「刃を研ぐ。」

子どもが主役の学校

子ども一人ひとりの「生きる力」を育む
質の高い授業を実現する。地域とともに子どもを育てる学校を推進する。

行動目標 ・いじめ0、不登校0

地域に開かれ・根ざした学校「地域と共に子どもを育てる」

地域と学校の信頼関係、保護者と地域の信頼関係を築き、それぞれに責任を果たしながら、地域に親しみをもち、人との関わり合いを大切にできる子を育てる。学校を中心に互いに信頼関係を構築することで、この志三小地域で暮らすことへの誇りをもてるようにする。

「子どもが主役の学校」 教職員の基本姿勢 リーダー・イン・ミー教育の実践

○教師自身が児童の手本となる。明るく温かく笑顔で。

○明るさや温かさを根底にしながら、指導すべき点は明確に伝わるよう、身に付くよう温かく寄り添って指導する。
(体罰・暴言はあってはならない。)

○いじめを絶対に許さず、偏見や差別をなくす人権尊重教育の徹底に努める。

○保護者と共に、児童の成長を喜び合う。

○子どもの思いを受け止め、良いことと悪いことを明確に教える。勇気づける指導を進める。

○保護者・地域と温かい関係を築き、共によりよい学習環境・居場所を創造する。(iCSとの連携)

○特別支援教育への理解を進め、一人ひとりの良さを伸ばし、考える・分かる・できる喜びのある授業・教育活動を追求し、日々研究・研修に努める。

○進んで働く子

第1の習慣

「自分で考えて行動する。自分に責任をもつ。」

- ・感情に流されない強さを育てる
 - ・能動的な言葉で自分の主体性を引き出す子を育てる
 - ・「自分が出来ること」に注力する子を育てる
- 当番活動・委員会活動「みんなのためになる、学校が楽しくなる工夫」
環境美化 清掃・後片付け(ゴミを拾う、靴をそろえる、傘立てをきれいにする等)
言われてやるのではなく、進んでやる「自主性」を校風にまでしていく。

○考えて行動する子

第2の習慣

「ゴールを決めてから始める。何が大切かを考える。」

- ・おわりに何を思いたいかをイメージする力を育てる
- ・自分のミッションを決められる力を育てる

第3の習慣

「大切なことを今すぐに。自分の約束を守る。」

- ・最良の選択が出来る力を育てる
- ① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
確かな力と豊かな力を身に付ける授業

○板橋区授業スタンダードの実践 読み解く力の育成

- ・めあてを明確にもち、自ら考え、学び合う授業
- ・正しく読み取り、考え、表現する場を取り入れた授業
- ・教えるべきところをしっかりと教える授業

○授業スタンダードSの実践

- ・児童が自己選択、自己決定、自己調整(self+select)する場を取り入れた授業
 - ・多様な児童生徒のニーズに応える授業
 - ・一人一台端末を効果的に活用した授業
- ⇒各教科等の特性や単元・題材のねらい、児童・生徒の実態に応じて、教師が選択する(Select)。

○自分の考えを広げ、深める話し合い活動の充実

- ・目的を明確にした意見交流の場を取り入れた授業
- ・根拠をもって説明できる力の育成
- ・多様な見方・考え方を尊重した話し合い活動の実践

○校内研究のテーマ

「(検討中) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点から」

② 外部や地域の講師と連携した体験的な授業

本物から学ぶ場の設定

豊かな体験は、豊かな心を育み、子どもたちに学ぶ意欲や追究する力を育てる。本物との出会いを大切に、体験的な授業の充実を図る。

③ キャリア教育・環境教育・防災教育の充実

「持続可能な社会のつくり手の育成」を目指し
キャリア教育・環境教育・防災教育の充実を図る。

数値目標：好きな教科や授業がある子 %

学習指導は、生活指導の基本である。子どもたちが主体的に生き生きと活動する授業を進めていく。

<特別支援教育の充実>

ユニバーサルデザインの視点にたった環境作り
教室掲示、ICTの活用で子供の特質を考慮する

<ステップアップ教室 拠点校>

・4校(志一小、志二小、志三小、加賀小)における特別支援教育の充実

<きこえとことばの教室>

・一人一人の児童の課題に合わせた個別指導の充実
・読み書きする力の向上

⇒在籍学級との連携 同じ目線で共に生きる指導

○なかよく助けあう子

第4の習慣

「Win-Winを考える。」

- ・信頼に支えられた成功を目指す子を育てる。

第5の習慣

「まず理解に徹し、そして理解される。」

- ・心に耳を傾けて聴く「傾聴」出来る子を育てる。
- ・自分が変わるから、相手が変わる気持ちを育てる。

第6の習慣

「シナジーを創り出す。」

- ・わかり合う難しさの中にこそ、成長と創造の機会があることが分かる子を育てる。
- ・自分の中にシナジーを起こし、波紋の中心になる子を育てる。

① いじめ・暴力を許さない。

- ・いじめを生まない関係作り・言葉遣いは心遣い
- ・ふれあい月間アンケート
- ・WEBQUアンケートの活用
→意欲の向上・自己肯定感の向上を目指す
児童のサインを見逃さない

※校内いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめを許さない風土を作り上げる。(各機関との連携)

② 思いやり勇気のある子

- ・自己肯定感を高める指導、支援。
- ・相手の利益を考え、自分の利益も大切にする気持ち
→「思いやり」「勇気」
- ・どの子にも出番のある場の設定
- ・達成感のある行事

③ 仲間と共に助け合える子

- ・困っている友達に、優しく接することができる。
- ・福祉教育(道徳教育・人権教育)、特別活動の充実
- ・よりよく生きるための実践につなげる道徳

数値目標：友達を助ける、仲良くする %

○健康で明るい子

「共遊び」の推進

第7の習慣

「刃を研ぐ。」

- ・人間関係に貢献して、自己の価値への自信を高める子を育てる。

① 体力向上 運動を楽しむ子の育成

- ・体育の授業の充実
- ・年間を通した計画的な体力づくり
短なわ跳び月間等 チャレンジすることを楽しむ

② 自己管理

- ・「早寝・早起き・朝ご飯・運動」
基本的な生活習慣の定着
- ・ソーシャルスキルトレーニング(社会性)
- ・ストレスマネジメント(気分コントロール)
- ・安心・安全の知識「自分の身は自分で守る」
- ・SNS等のかかわり方 セーフティ教室等

数値目標：朝は自分で起きている子、朝ご飯を毎日食べている子 %

③ 健康・保健への意識

- ・食育推進 学校給食との連携・食物の栽培や出前授業など体験的な学習 ⇒ **本物から学ぶ**
- ・心と体、自他の命を大切にする学習

<学びのエリアでの連携>

・志村村第一中学校、志村第一小学校、志村第三小学校、富士見台小学校で9年間を見通した一貫した知・徳・体の育成

<近隣幼稚園保育園との連携 幼保小連携>